

2026年度

外国人留学生入学試験

問 題

日本語小論文

奈 良 大 学

社会学部 総合社会学科

【問題】

現在の日本社会には、少子高齢化、地域社会の衰退、経済格差、気候変動など、さまざまな社会問題が存在しています。あなたが特に関心を持つ社会問題を一つ取り上げ、その背景と影響について説明してください。さらに、その問題に対してあなた自身がどのように考えるか、またどのような対応が必要だと思うかを述べてください。字数は 600 字程度とします。

2026 年度入試 外国人留学生入学試験(出題意図、解答例) (総合社会学科)

【出題意図】

本問題は、受験者が現代日本社会が抱える具体的な社会問題について理解し、その背景と影響を自分の言葉で説明できるかを評価することを目的とする。単なる知識の提示にとどまらず、取り上げた問題がなぜ生じているのか、それが社会にどのような影響を及ぼしているのかを論理的に整理し記述する力を確認する。さらに、問題に対する自分自身の考えと、必要と考える対応策を述べさせることで、受験者が社会的課題を自分自身の問題として捉え、主体的に思考し、日本語で筋道立てて表現する力を持っているかを測ることを意図している。

【解答例】

私が特に関心を持っている社会問題は少子高齢化である。少子高齢化とは、出生率の低下と平均寿命の伸びによって、人口に占める高齢者の割合が増加し、同時に子ども数が減少していく現象を指す。日本では 1970 年代から出生率の低下が続き、現在では総人口に占める 65 歳以上の割合が 30 パーセントに近づいている。

この問題の背景には、女性の社会進出や晩婚化、子育てにかかる経済的負担の増加などがある。仕事と育児の両立が難しい環境や、都市部における住宅費や教育費の高さが、若い世代が子どもを持つことをためらう要因となっている。

少子高齢化は社会に深刻な影響を及ぼす。労働力人口が減少することで経済成長が鈍化し、年金や医療などの社会保障制度を支える現役世代の負担が増える。また、地方では人口減少により学校や病院が閉鎖され、地域社会そのものが維持できなくなる例も見られる。

私は、この問題に対応するためには、子育て世代への経済的支援と働き方の柔軟化を同時に進める必要があると考える。保育施設の拡充や育児休業制度の充実に加え、テレワークなど多様な働き方を認めることで、仕事と子育てを両立しやすい社会を作ることが重要である。また、高齢者が働き続けられる環境を整備し、世代を超えて支え合う仕組みを構築することも欠かせない。少子高齢化は一朝一夕には解決できない課題であるが、社会全体で長期的な視点を持って取り組んでいくことが求められている。